

能登郡の内二拾箇村

鳳至郡の内二拾一箇村

珠洲郡の内三箇村

三箇國高合百二拾萬二千七百六拾石

内拾八萬石除之

近江國

高嶋郡の内

今津村

弘川村

高二千二百六拾石二斗八升二合

都合百二萬五千二拾二石斗八升二合

右今般被指上郡村之帳面相改、及上聞所被成下御判也。此儀兩人奉行依被仰付執達如件。

寛文四年四月五日

永井伊賀守

小笠原山城守

松平加賀守殿

一、順庵先生父子仲秋の詩

木 順 菴

金波流月夕。一洗去年陰。逐影頻移榻。待更間撫琴。讀書添老興。徹燭寫新吟。安得秦臺鏡。照吾舊染心。

木 寅 亮

海風吹雨過東樓。一色長天素影流。鏡鑿江山龍忽起。犀燃水底魅空愁。無邊光霽灑溪月。不味虛靈雲谷秋。仙客由來多妄誕。廣寒莫浪淡清遊。

木 順 菴

明月年々照上頭。十分清氣滿天流。燃犀水底魚龍駭。懸鏡山中鬼魅愁。徒聽鴻飛遼北渚。不勝人老倚南樓。誰家半夜笛聲起。吹入鄉關萬里秋。

木 寅 亮

海暮陰雲未散愁。二更月出一年秋。金波無限玉光動。銀海生寒雪色浮。曲々欄干吟詠異。家々筵席管絃停。幾回朗誦謝藏賦。誰共俱登文選樓。

一、洛陽雨森良意建炎帝祠序

天下之利無大於五穀。天下之患無急於疾病。人非五穀則無遂其生。非醫藥則無拯其疾。昔神農氏之王天下也。始教種藝。又辨神木良否。使斯民皆躋于仁壽之域。至於海隅邊徼萬里之外無不賴焉。嗚呼神農氏之功德。可謂至矣。故漢文帝開籍田。祀先農也。以一大半。百官皆從。賜三輔

二百里孝悌力田三老。種百穀萬斛。爲籍田倉。置令丞。穀皆以給天地宗廟群神之祀。厥後歷代相承。永遼嘉範。及於有明。每皇帝初即位。行耕籍禮親祀之。所以報本反始也。不佞家藏神農木像高二尺。唐良工所造。牛首龍顏。草衣石坐。洋洋乎有神靈也。居在市廛間。常恐有火難。是以欲郊外獲一善地安置之。當今神祠佛廟相望於州縣間。未聞有一神農祠。豈非缺典也。竊不自揣。欲往時待時奏之昭朝。建其祠宇。使醫家及種藝之人。與夫久病瀕死者。致其禱祀之誠。又側置一書庫。多聚古今文籍。以許人就觀其書。又置藥苑。植奇艸異木。使人職治病之品。別置藥田。以其田之所入調合藥劑。博施於窮人無告者。是不佞曠昔之願也。錄積寸累。以經營有日。自度力不能爲。動搖興作甚難也。故將謀於世之君子。趨爲善者。其或有嘉不佞志。必捨其有以助成之者焉。正月元日。醫家掛神農畫像於壁間。供年餅酒果。又有新年試筆。不佞因欲爲神農像。得儒宗名公繪薦先生。自上大醫院下及世醫者之佳作爲一軸。仰乞莫吝賜一貢。

寛永三年丙戌正月初五日

雨 森 良 意

一、くすし良意は洛陽の人、あひしること久し。或時やつがれに語りていはく、まことや豺狗ものを祭り、獺いをまつるのたぐひ、皆そのもとをわすれずとなん。いはんや人として此心ならんや。我かひくしくはなければども、せめて一專國土の益と成てすこしく國恩を報いん。徒にあかし暮して野邊の草木とともに朽ちてんは、いと口惜きことにこそあなれ。爰に一つあり。我家に神農の尊像を藏む。是を奉じて我別墅にうつし、こゝろ清くつかへまつりて、かしこに藥の苑をかこみ、あやしき草ことなる木を植うべし。から國にはありて御國にはなく、御國に有りて人のしらざるあり。又むかしよりこと草を用ひて藥とし、あやまるものあり。是らの別をたゞして、廣く人に見せ辨へしらしめん。あるは藥を遠人の國に求むるの費をはぶくものすくなからじ。又我家素より貯ふる所のから、大和のみを基として、なほ新にましあつめ、皆庫に藏めて貧しきが醫をまなび、又よむ人にかしてその志を遂しめん。抑かけまくもかたじけなくも、神農の功德を申さば、民に田作る道を教へて、五の穀はじめて人をやしなひ、蠶かふわざ